みどりを育む
横造協だより

発　行　Vol.50
一般社団法人　横浜市造園協会
緑の諮問委員会
横浜市中区相生町6-104　横浜相生町ビル３階
TEL 045-662-9897　FAX 045-664-5633
http://www.yokohamashizoen.or.jp

「みどり豊かな魅力あふれるガーデンシティ横浜の実現に向けて」

横浜市環境創造局みどり政策推進担当理事　藤田 辰一郎

はじめに

皆様、本年４月より環境創造局みどり政策推進担当理事を拝命致しました藤田辰一郎です。

横浜市造園協会の皆様には、日頃から、公園の整備と維持管理、街路樹の育成や、横浜みどりアップ計画に基づく樹林地の整備・管理や緑化の推進など、本市の公園緑地行政の全般に渡りまして大変お世話になっており、誠にありがとうございます。

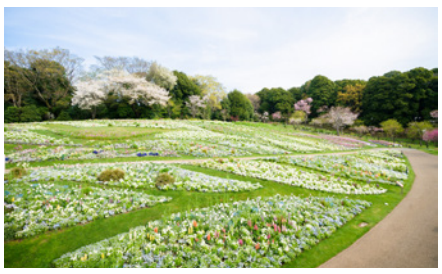
市内には、令和５年４月現在で２７１５箇所の公園があり、また47箇所の市民の森などの樹林地も数多くございます。市民生活の身近な場所に、美しく豊かなみどりがあることが本市の魅力であり、これらのみどりを市民の方々が安全に快適に楽しむことができるのも、横浜市造園協会の皆様による日頃からの丁寧な現場での取組みと、さらには台風など緊急時の迅速な対応があってこそ存じます。皆様の日頃からの御尽力に、改めて深く感謝を申し上げます。

ガーデンネックレス横浜

今年も、横浜市造園協会の皆様をはじめ、市民や企業など多くの方々の御協力のもと、「ガーデンネックレス横浜２０２３」を開催することができました。皆様もご承知のとおり、２０１７年に開催された「第33回全国都市緑化よこはまフェア」以降、そのレガシーとして、花や緑によりまちの賑わいの創出につなげる「ガーデンネックレス横浜」に継続して取り組んでいるところですが、今年は60回目を迎えた山下公園の花壇展のほか、公益財団法人日本いけばな芸術協会様と連携した「いけばなLIVE」を開催することができ、例年以上に横浜の街を美しい花や緑の演出でおもてなしすることができました。

いけばなの日記念「いけばな LIVE」

春の里山ガーデンフェスタでは、「爽快の丘」をテーマに白を基調とした大花壇をはじめ、１４０品種30万本の花々で会場を彩り、14万人を超える皆様にお楽しみいただきました。また、９月16日から10月15日の秋の里山ガーデンフェスタでは、「飛躍の丘」をテーマに日本の伝統色である橙や紫など躍動感あふれる色彩の約１００品種・20万本の花々で、リピーターなど多くの来場者にお喜びいただけたところです。



春の里山ガーデン（横浜の花で彩る大花壇）

みどりアップ計画

本市では豊かな緑を次世代に継承していくため、２００９年に横浜みどりアップ計画を策定し、横浜みどり税を財源の一部に活用しながら、樹林地の保全や活用、美しい農景観の保全や地産地消の推進、街なかでの市民の実感につなげる緑の創出などに、横浜市造園協会の皆様とともに取り組んでまいりました。

これまでの取組により、計画策定以降の14年間では、新たに約１０５０haの樹林地を緑地保全制度により指定するとともに、貴重な憩いの場である市民の森を新たに16箇所開園することができました。また、水田においては、その約９割で美しい水田景観を継続的に保全できたほか、様々な市民ニーズに合わせた農園が新たに３１０箇所開設できました。さらには、青空市やマルシェ等を開設支援し、地産地消にふれる機会も拡大できました。地域ならではの緑を創出する「地域緑のまちづくり」の取組は、市内の67箇所の場所で展開され、各区のオープンガーデンなど地域に根差した緑や花の取組みも展開されています。

現在の横浜みどりアップ計画［２０１９-２０２３］は、今年度末にその計画期間が終了しますが、緑の保全と創造は長い時間をかけて継続的に取り組む必要がございます。そこで、これまでの取組の成果などを踏まえ、２０２４年度以降に取り組む「これからの緑の取組［２０２４-２０２８］」の原案を本年９月までにとりまとめたところです。これまでの取組を基本にしっかりと継承しながら、指定した樹林地での維持管理支援の拡充をはじめ、市民の森としての開園や地域における多様な利活用の推進、都心部から郊外部まで農とふれあう機会の展開、地域緑のまちづくりにおける支援拡充などを進めていく予定です。引き続き、２０２４年以降の「これからの緑の取組」に向けて検討を進めていきます。

国際園芸博覧会に向けて

２０２７年に上瀬谷で開催される国際園芸博覧会（GREEN×EXPO２０２７）は、国際的な園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決への貢献を目的に、国際園芸家協会（ＡＩＰＨ）の認定を受けて開催される国際的な博覧会です。本博覧会は、最上位（Ａ１クラス）の国際園芸博覧会であり、国内では７回目、一都三県では初めての万博となります。また、テーマは「幸せを創る明日の風景」であり、「Nature-based Solutions＝自然を活用した解決策」という考え方が世界に向けて発信されることになります。

本年３月には、横浜市造園協会の皆様のご寄贈により、ＪＲ桜木町駅前広場に桜の植樹と開催までのカウントダウンボードを設置することができました。改めてここに深く感謝を申し上げます。開催まで３年半を切りましたが、引き続き横浜市造園協会の皆様をはじめ、多くの市民や企業・団体の皆様とともに成功に向けて、機運を盛り上げ、取り組みを進めていく所存です。

そして、今秋からは、いよいよ会場の基盤ともなる（仮称）旧上瀬谷通信施設公園の整備がスタートいたします。ネイチャーポジティブなど次世代のライフスタイルを、あらゆる世代で実感できるような新しい公園を目指してまいります。

おわりに

令和５年の本年は、明治６（１８７３）年、太政官布達第16号により都市公園制度ができてから１５０年の記念すべき年となります。本市では、これに先立ち明治３（１８７０）年に我が国初の山手公園が開園し、その後の明治９（１８７６）年には彼我公園（現：横浜公園）が開園しています。さらに、関東大震災や第二次世界大戦からの復興、戦後の高度経済成長に伴う都市化のなかで、本市諸先輩の方々のご尽力により、実に多様で特色ある公園整備や、様々な緑地保全施策が先駆的に進められてきました。

これまで以上に、横浜市造園協会の皆様をはじめ、多くの市民や企業など皆様の御協力いただきながら、GREEN×EXPO２０２７の成功、そして「花・緑・農・水の豊かな魅力あふれるガーデンシティ横浜」の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

絵葉書 横浜公園の噴水池と桜
（明治末～大正期）横浜開港資料館所蔵

略　歴

1989年　千葉大学園芸学研究科修了
1990年　横浜市緑政局に入庁
2018年　公園緑地部長
2023年より環境創造局みどり政策推進担当理事

第46回通常総会を開催

5月31日メルヴェーユにおいて第46回通常総会を開催。左記議案について審議し全て承認された。

《承認事項》
第1号議案　令和4年度事業報告（案）の件
第2号議案　令和4年度決算報告（案）の件
第3号議案　令和5・6年度会費基準（案）の件
第4号議案　令和5・6年度役員改選（案）の件

《報告事項》
第1号　令和5年度事業計画の件
第2号　令和5年度収支予算の件

総会終了後、「2027年横浜国際園芸博覧会の概要について」公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会参与　小池政則様からご講演をいただいた。また、4年ぶりに「ハマの緑を育むつどい」を開催した。

市長あいさつ
（平原副市長代読）

田澤会長をはじめ、横浜市造園協会の皆様、本日は、第46回 通常総会、「ハマの緑を育むつどい」の開催、誠におめでとうございます。

皆様には、日頃から、横浜の緑あふれる美しい街並みづくりを力強く支えていただき、深く感謝申し上げます。

今年も、皆様のお力添えのもと、「ガーデンネックレス横浜2023」を開幕することができました。昨年に続き、横浜の街が、多くの花と緑で鮮やかに彩られています。また、60回を迎えた山下公園の花壇展は、訪れた多くの方々に、様々なテーマで形作られた花壇の美しさをお楽しみいただきました。これだけの規模、かつ高いクオリティの、花と緑の催しを継続的に開催できますのも、ひとえに皆様のお力添えの賜物であり、大変感謝しております。

ご承知のとおり、2027年には、ここ横浜で、国際園芸博覧会「GREEN×EXPO 2027」を開催します。1都3県では初めてとなる万博です。

今年の3月には、皆様に御協力いただき、JR桜木町駅前広場に、桜の樹と開催までのカウントダウンボードを設置することができました。改めて、御礼申し上げます。そして秋頃以降には、万博会場となる上瀬谷地区での公園整備がスタートします。開催までの4年間、花と緑の持つ大きな力を、改めて多くの皆様にお伝えし、皆様と御一緒に、大きく盛り上げていきたいと思います。

将来にわたり、横浜を飛躍させていくため、そして、花と緑あふれる、心豊かで潤いのある暮らしを市民の皆様にお届けするため、今後も「ガーデンシティ横浜」として、進化を続けてまいります。

皆様方のますますの御支援・御協力を、よろしくお願い申し上げます。

むすびに、横浜市造園協会のますますの御発展と、御列席の皆様の御健勝、御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

会長あいさつ

本日はお忙しいところ、このように多くの皆様に4年ぶりに開催することができました「ハマの緑を育むつどい」にご参会いただきまして、誠にありがとうございます。

先ほど当協会の「第46回通常総会」が終了いたしまして、引き続き会長を仰せつかわりました田澤でございます。

さて、3月25日に開幕した『ガーデンネックレス横浜 2023』は「よこはま花と緑のスプリングフェア」、「第60回花壇展」、「里山ガーデンフェスタ」については、市内外から多くの方々に来場いただき花と緑のすばらしさを堪能していただきました。

「2027国際園芸博覧会」開催まで4年を切り、正式な略称「GREEN×EXPO2027」正式ロゴマークも決まり、基本計画も発表されました。

当協会としましても引き続き機運醸成の盛り上げにお手伝いさせていただくと伴に開催に向けて、最大限のご協力を　させていただきたいと考えるところであります。

結びにあたりまして、ご参会の皆様のご健勝をご祈念いたしますとともに、今後とも引き続きご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございます。

令和５・６年度
役員名簿

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

【共創キックオフ・ミーティング】

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会は、9月26日に共創キックオフ・ミーティングをパシフィコ横浜ノースにて開催しました。当日は、会場が満席となる650名を超える方々にご参加いただき、皆さまのGREEN×EXPO 2027に対する期待の高さを感じました。横浜市造園協会会員の皆さまにもご参加いただき、誠にありがとうございました。

第一部では、GREEN×EXPOラボの涌井史郎チェアパーソンと隈研吾マスターアーキテクトによるキックオフ・トーク、河村正人事務総長によるプレゼンテーションを通して、GREEN×EXPO 2027の目指すビジョンや共創の姿を共有しました。

第二部では、GREEN×EXPO 2027における出展・協賛等に関する参加メニューについての説明を行い、企業・団体等の皆様へ参画を呼びかけました。当日の資料は、協会ウェブサイトに掲載しています。同サイトにて、今後参加メニューが決まり次第順次公表していきます。https://expo2027yokohama.or.jp/sponsorship/

会場イメージ図（2023年９月作成）

【ドーハ国際園芸博覧会】

10月2日からカタール国にて、中東地域初となるA1クラスのドーハ国際園芸博覧会が開幕しました。テーマは、「緑の砂漠、よりよい環境」。これまでと違う砂漠気候の地で、先進的な緑化技術等の展示を行う日本国出展において、より多くの国際機関の皆さまが次の園芸博覧会へご参加いただけるようGREEN×EXPO 2027のPRをしています。

ドーハ園芸博日本館における展示の様子

【機運醸成】

博覧会機運醸成のため、横浜市内を中心に各種イベントに出展してPRを行っています。G7広島サミット及び各関係閣僚会合では、国際メディアセンター等においてブースを設けて、世界各国の政府関係者やメディア等に向けたPRを実施しました。

G7 宮崎農業大臣会合での展示の様子

2023年2月8日に発表した最優秀賞作品について必要な手続きを行い、4月28日に、公式ロゴマークを発表しました。皆様に親しんでいただけるよう、積極的に活用してPRを行っていきます。

また、9月19日には、公式アンバサダーと公式マスコットキャラクターの制作について発表しました。公式マスコットキャラクターは、世代、性別、国籍を問わず誰にでも愛され、皆様と一緒に本博覧会を体験するパートナーとなります。マスコットデザインは指名コンペティションを実施し、公式マスコットキャラクター選考委員会にて審査・選考し、意見募集を経て2024年3月の発表を目指します。その後、3月から4月にかけて一般公募で愛称を募集し、博覧会開催1000日前となる2024年6月の発表を目指します。今後の新着情報は協会Webサイトにてお知らせします。

引き続き、皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。

協会公式
Web サイト

樹木に魅せられて（第45回）

横浜市環境創造局みどりアップ推進部

担当部長　**真船 かおる**

私の原風景

私は東京郊外の八王子市で生まれ育ちました。北斜面で北西角地の我が家の庭はそれほど大きいものではありませんでしたが、斜面をうまく利用して、コデマリ、ユキヤナギ、エニシダ、沈丁花、ハナズオウ、ツツジ、カルミヤ、アジサイ、クチナシ、金木犀、ピラカンサ、サザンカ、梅、桃、梨、柿などの樹木が所狭しと生い茂り、その足元にはフクジュソウ、スミレ、イカリソウ、ヒトリシズカ、スズラン、ミズヒキ、ミヤコワスレ、タマスダレ、シュウカイドウが、花壇にはスイセンやチューリップが咲き誇り、四季を通じて楽しむことができました。

このような環境で育った私の原風景はまさにこの庭にあり、華やかなバラも大好きですが、実は沈丁花やキンモクセイの香り、スズランやヒトリシズカ、ミヤコワスレといった野草の控えめな姿に、いまだにたまらなく心を惹かれます。

バラに魅せられて

私自身で花を育てるようになったのは、実家を離れて10年程経った頃からです。たまたま訪れた蓼科のイングリッシュガーデンで、「ジャスト・ジョーイ」という名のオレンジのバラに一目ぼれしたのがきっかけでした。

20代前半から生け花やフラワーアレンジメントなどを習い、家の中では花を楽しんでいましたが、この時を境に、私の興味は切り花から根のある植物に完全に切り替わりました。そのうちバラだけではなくヤマアジサイやクリスマスローズ、春咲きの球根植物など、次々と増えていきました。

300個以上の花鉢があった時には、もう1年中、週末はすべて花の世話に明け暮れました。水やりがあるために、毎年のように行っていた夏の海外旅行は近場の1泊旅行に変わり、夫にも両親にも呆れられましたが、全く気になりませんでした。ただバラだけで80鉢くらいになった時に、さすがに疲れを感じ、そこから少しずつガーデニングに費やす時間が減っていきました。ガーデニング熱がそれなりに沈静化した頃、環境創造局に異動となりました。ちなみに今は40鉢くらいのバラを枯れない程度に世話しています。

都市緑化フェアに携わって

事務職である私にとって、花はあくまで趣味だったわけですが、環境創造局に異動し都心部公園担当から都市緑化フェアの仕事に携わることになり、この趣味が自分を大いに助けてくれることになるとは本当に思いも寄らないことでした。いろいろと大変なこともありましたが、緑化フェアの仕事は本当に幸せな経験となりました。この仕事に関わった多くの人が「幸せの風景」を実感したと思います。そのくらいインパクトのある取組となり、さらに現在のガーデンネックレス事業につなげられたことを、とても誇らしく感じています。

幸せな風景を心から感じたい

現在、縁あって再びガーデンネックレスの仕事に携わることになり、さらに園芸博（GREEN×EXPO 2027）にも関わっています。園芸博は、その規模も事業の難しさも関わる人々の数も、緑化フェアとは比較にならないほど大きい取組です。間近で見ているからこそ、改めてその道のりの険しさを感じています。

しかし園芸博は、日本各地の自然に根差した暮らし方や考え方、そして日本の園芸文化そのものを世界に発信できるまたとないチャンスであり、その素晴らしさを私たち自身が再認識できる機会でもあります。緑化フェアで達成できた幸福感を知っているからこそ、園芸博に関わる全ての人が「幸せな風景」を心から感じられるように、私も微力を尽くしていきたいと思っています。

労働安全衛生大会を開催

7月20日　メルヴェーユにて令和5年度労働安全衛生大会を開催した。

ご来賓
横浜南労働基準監督署長
齊藤裕紀 様
横浜市環境創造局
みどり政策推進担当理事
藤田辰一郎様
横浜市道路局長
田中洋介様
横浜市財政局ファシリティマネジメント推進室長
福島雅樹様　他　21名

出席者　82名（会員）

講演
造園作業における墜落防止対策について

委託安全パトロールを実施

実施日
7月4日

実施案件
公園維持業務委託（保土ヶ谷区・栄区・青葉区）
街路樹維持業務委託（西区）

総評

・公園入口の車止めについて
公園維持委託業務にて作業車両を公園内に乗り入れた後は、車止めを元に戻すか、カラーコーン等を設置して下さい。穴が開いたままですと、子どもの足が落ちたりつまずいたりして危険です。面倒がらず、安全に配慮下さい。

・作業機械などの燃料（ガソリン、混合油）の保管、取り扱いについて
必ずガソリン用携行缶を使用して下さい。（UNマーク等の国際基準品）
また、夏場など車内の気温が上昇しますので、換気可能な場所に保管して下さい。

2027年国際園芸博覧会開催に向けて（講演会）開催

国際園芸博覧会の機運醸成の一環として（一社）日本造園建設業協会神奈川県支部共催・（公財）横浜市緑の協会後援で講演会を開催した。

開催日　6月14日
会場　ロイヤルホールヨコハマ
講師　国土交通省大臣官房審議官（都市生活環境・国際園芸博担当）現　横浜市政策局政策担当理事
五十嵐康之様
演題　2027年国際園芸博覧会開催に向けて
参加者　71名

秋の里山ガーデンフェスタ開催

ガーデンネックレス横浜2023秋の里山ガーデンフェスタが9月16日から10月15日まで開催された。来場者は75,597人となり秋のひと時を多くの方に楽しんでいただいた。

横浜市内産の、約100品種20万本の多種多様な花々で彩られた。

今秋は、『躍動の丘』をテーマに、浮世絵や着物の柄をイメージして、橙色や紫色など日本の伝統的な色彩を取り込み、華麗にしてダイナミックな色の組合せの花々で躍動感を表現した。

最優秀標語

慣れと過信は事故のもと
基本に返ってもう一度
手順を見返し無災害
田口園芸㈱　境井康之

横浜南労働基準監督署長
齊藤裕紀様

安全講和
横浜市環境創造局　技術監理課　担当課長　遠藤充様

安全対策講習会
ハチ対策講習会
～これからの対処方法～
森の安全を考える会
森中大晴　様

優秀賞（敬称略）
㈱環境造園　常盤　誠
㈱倉本造園　倉本　潤
㈱田澤園　田中正樹
㈱港薬品造園　吉田勝洋

よこはま花と緑のスプリングフェア2023「花壇展」

当協会が協賛している「よこはま花と緑のスプリングフェア2023 花壇展」が、「ガーデンネックレス横浜2023」の連携イベントとして、会員及び横浜農業協同組合に出展のご協力を頂き4月7日～5月7日の31日間、山下公園で開催された。

今回から新たに（公社）2027年国際園芸博覧会協会賞が加わり市民賞（来場者の投票）と併せて9賞が決定した。

期間中は21区画の技と個性あふれる彩り豊かな花壇が山下公園を訪れる人々を出迎えた。アンケートにご協力いただいた方に堆肥のプレゼントを行った。

また、会場の花と緑の園芸店では季節の花苗や多肉植物を販売した。

花壇展はお陰様で今回で60回目を迎えた。これを記念して花壇展60周年記念誌を作成中。

《12月中旬完成予定》

【出展社】（受賞社を除く）㈱佐藤造園・日光緑化建設㈱・㈲関水商事・㈱大和園・堀江造園㈱・㈲ウィステリアグリーン・㈱横浜緑化・㈱港南植木ガーデン・㈱緑心園・㈲増田園・生駒植木㈱・石山造園㈱・㈱倉本造園

【横浜市長賞】㈱田澤園
「花」で広がる暮らしの風景

【横浜市会議長賞】【市民賞】横浜緑地㈱
Flower Party

【（公社）2027年国際園芸博覧会協会賞】赤坂造園㈲
いろどりタイマー

【横浜市環境創造局長賞】横浜農業協同組合
調和

【（一社）横浜市造園協会会長賞】㈱濱田園
棚田の春

【（公財）横浜市緑の協会理事長賞】大光造園建設㈱
憩いのひと時

【神奈川新聞社賞】㈱みやした園芸
郷愁

【みどりアップ奨励賞】小島造園㈱
春花

横浜市造園技術交流会「造園技術伝承研修会」（竹垣）開催

3月26日から開催されていた「ガーデンネックレス横浜2023」の開催地の一つである横浜公園内彼我庭園において造園技術伝承研修会竹垣作成を研修形式で開催した。

【開催日】5月24日
【会場】横浜公園内彼我庭園
【開催者】横浜市環境創造局（一社）横浜市造園協会
【趣旨・目的】日本古来の作庭技術の実施研修として『竹垣』をテーマにし光悦寺垣の作成技術習得を目的とする。
【参加者】
・横浜市職員8名
・会員36名
【講師】大胡周一郎氏
【対象者】横浜市職員
・横浜市造園協会員
【実施内容】竹垣（光悦寺垣）作成の見学研修

第40回全国都市緑化仙台フェアに出展

第40回全国都市緑化仙台フェアが開催された。

愛称
未来のせんだい2023～Feel green～
開催テーマ
杜の都から始まる未来、みどりを舞台に人が輝く
作品タイトル
Peace spirit is poured out from Yokohama
「平和の心は横浜から溢れ出す」
開催期間
4月26日～6月18日（54日間）
出展場所
青葉山公園追廻地区会場
区画面積
40㎡
施工者
㈱春峰園

災害実地訓練を実施

大規模な災害が起こったことを想定した実地訓練を実施した。（災害協力事業者認定講習会）

実施日　6月16日
会場　こども自然公園芝生広場
共催　横浜市環境創造局公園緑地維持課
目的　公園が災害時に避難する大切な場所であることをアピールする。
内容
体験訓練　土嚢詰め、積み訓練・担架作成
見学訓練　バックホウアタッチメントを使用した「切断した幹の移動」マキタ展示会
出席者　94名（内横浜市職員16名）

令和5年度横浜市環境創造局事業概要等説明会を開催

4月13日メルヴェーユにおいて令和5年度横浜市環境創造局事業概要等説明会を開催した。藤田みどり政策推進担当理事からごあいさつをいただき、環境創造局予算概要・国際園芸博覧会に向けた取組と予算概要等について説明を受けた。

出席者　50名

ガーデンネックレス横浜2023に協賛

ガーデンネックレス横浜2023協賛花壇を山下公園に展示した。（4月7日～5月7日）

協賛花壇

新賛助会員のご紹介

入会日　4月1日
団体名　横浜市グリーン事業協同組合
代表者　理事長　土志田淳
所在地　横浜市中区住吉町1-13